



農林水産省登録
第22801号

殺ダニ・殺虫剤

サフオイル[®]乳剤

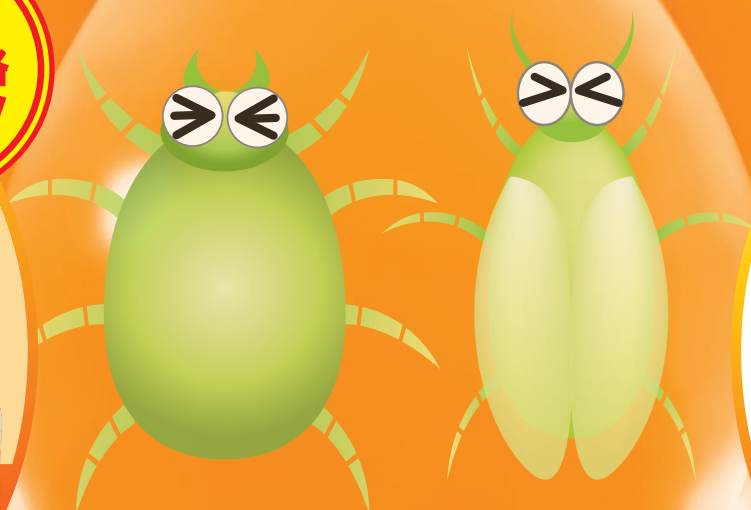
Suffoil

調合油乳剤

一歩上の物理防除剤
残効性・殺卵効果もあるんです！

有機JAS
使用可能農薬

5ℓ
大型規格
発売中!!



天然物由来
紅花油・綿実油



サフオイル乳剤の特長

- 物理的に作用する剤であり、抵抗性が発達するおそれが殆どないので連続散布が可能です。
- 抵抗性の発達しやすいハダニ類及びコナジラミ類にも効果を発揮します。
- ハダニ類への残効性が認められています。
- 殺卵活性も認められ、ハダニ類及びコナジラミ類の全発育ステージに対して有効です。
- 天敵や有用昆虫に対する影響が小さく、IPM(総合的病害虫管理)に適しています。
- 有効成分は食用の植物油で、収穫前日まで散布可能です。
- 日本農林規格 有機農産物(JAS1605:2024)の附属書B(規定)表B.1に適合する農薬(調合油乳剤)です。

適用病害虫の範囲及び使用方法

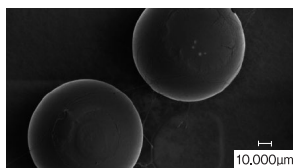
2026年6月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(10a当り)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	調合油を含む農薬の総使用回数				
かんきつ	ミカンハダニ	500	200~700 ℓ	収穫前日まで	-	散布	-				
	サビダニ類	300									
野菜類 (きゅうり、いちご、トマト、ミニトマトを除く)	ハダニ類 アブラムシ類 コナジラミ類	300~500	100~500 ℓ								
	チャノホコリダニ うどんこ病	300									
きゅうり	ハダニ類 アブラムシ類 コナジラミ類	300~500	100~500 ℓ								
	チャノホコリダニ アザミウマ類 うどんこ病	300									
いちご	アブラムシ類 コナジラミ類	300~500	-					定植前	-	2~10秒間苗浸漬	-
	ハダニ類										
トマト ミニトマト	チャノホコリダニ うどんこ病	300	100~500 ℓ					収穫前日まで	-	散布	-
	ハダニ類 アブラムシ類 コナジラミ類	300~500									
とうもろこし	ハダニ類	300~500	200~400 ℓ	摘採14日前まで	-	-	-				
茶	カンザワハダニ チャノナガサビダニ										
花き類・観葉植物(さくを除く)	ハダニ類										
さく	ハダニ類	300	-	定植前	-	10秒~1分間挿し穂浸漬	-				

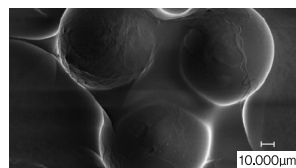
殺卵活性のメカニズム

引用:2020年Engineering in Life Science誌
武田ら(東京農工大学)論文

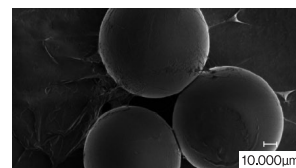
サフオイル乳剤は、卵表面およびその周囲の糸に膜をはったように付着する。



蒸留水

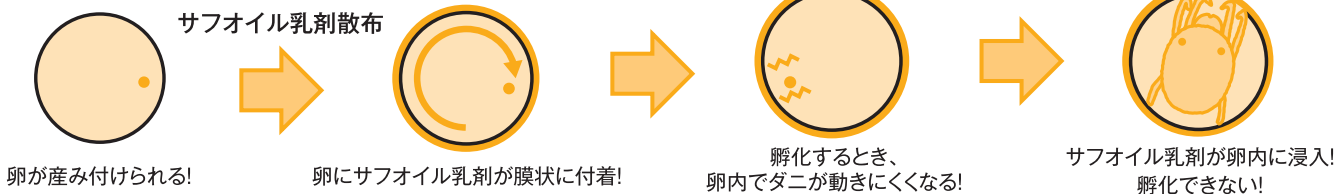


サフオイル乳剤(300倍希釈)



A剤(300倍希釈)

サフオイル乳剤が膜状に付着後、殺卵がどのように行われているか？



殺虫活性がある上に、殺卵活性があることで次世代に繋がせない。

上手な使い方

- 対象病害虫の発生初期に散布してください。
- 葉の表裏にムラなくかかるように十分な液量を散布してください。
- 残効性が短いので、病害虫の発生量が多い場合または周辺圃場からの飛び込みが多い場合には数日間隔(5~10日)で連続散布してください。
- 乾きにくい条件下では散布を控えてください。
- 展着剤の加用をお勧めします。
- ※ 展着剤の種類によっては薬害を助長するおそれがあるので事前に薬害の有無をご確認ください。
- いちごに使用する場合、オーソサイド水和剤80及びデランフロアブルとの混用はさけ、近接散布する場合は少なくとも28日以上あけてください。
- 28日以上あけても下葉には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。

使用上の注意事項

1. 使用前には必ず容器を振り、使用量にあわせ薬液を調製し、使いぎってください。
2. 散布液の調製に際してはよくかき混ぜ、散布液調製後は、攪拌しながらできるだけ速やかに散布してください。
3. 葉の表裏へていねいに散布してください。
4. 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法にあわせて調節してください。
5. 残効性が短いため害虫の増殖や圃場外からの飛び込みが活発なときには、数日間隔で連続散布するか、他剤との輪番で使用してください。また、害虫の発生初期に散布してください。
6. 軟弱徒長苗では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
7. 高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
8. カーネーションに使用する場合、葉表面のブルームが溶脱する等の薬害を生じる場合があるので、初めて使用する場合は使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。
9. さくの挿し穂浸漬に使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので高温時の使用をさけてください。
10. 空容器は圃場などに放置せず、3回以上洗浄し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
11. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
12. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
13. 苗浸漬の際は不浸透性手袋などを着用してください。
14. 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

【貯蔵上の注意事項】
直射日光をさけ、食品と区別してなるべく低温で子供の手の届かない場所に密栓して保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 空容器等は圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 防除日誌を記載しましょう。